〈隷書〉



清原大龍先生書

（この課題で書体は自由。但し、この課目は一人一点のみとする）

半折作品は各課目ごとに横1/8に一枚ずつたたんで提出ください。

〈楷書〉



山本飛雲先生書

□一雨晴（いちうせい）を送る初月（しょげつ）の色　百虫夜（ひゃくちゅうよる）を専（もっぱ）らにす胡秋（こしゅう）の声（黄滔）

次号予告「雨後蜻蛉荷葉舫　風前蟋蟀豆花籬」

〈行　書〉



井之上　南岳先生書

▽雨はひとふりして晴れ、三日月が見える。多くの虫は夜を我物顔に鳴き、胡地の秋の声をなす。

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



舟尾圭碩先生書

□あき可勢二　多な日くゝもの　多盈万より　も連いつ流月の　可遣農さや介佐

秋風に　たなひく雲の　たえ間より　もれいつる月の　かけのさやけさ

〈百人一首　七十九〉

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

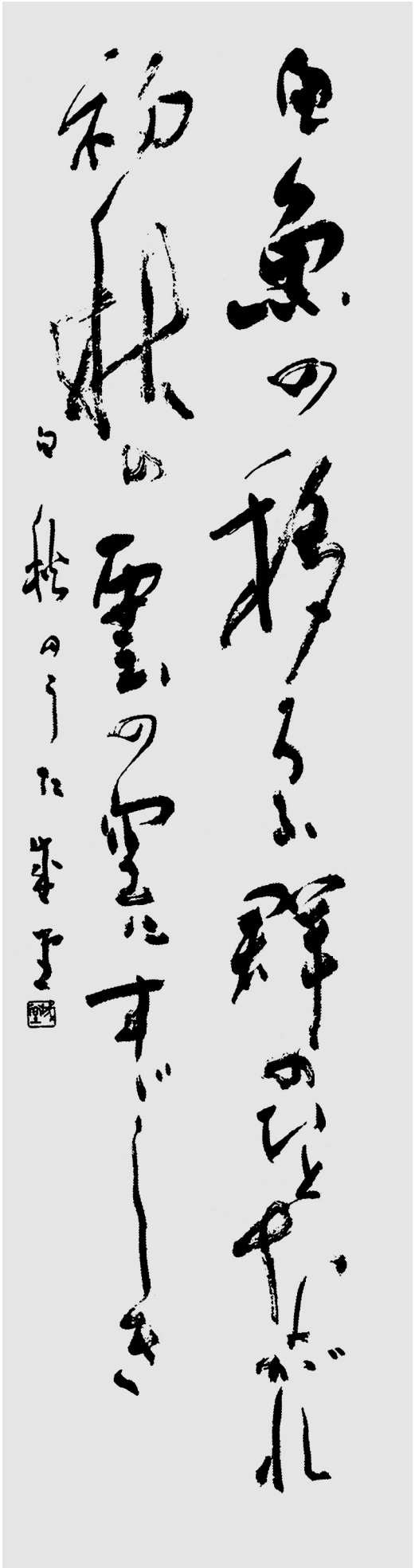


燕太子瞻事父曄仁結義徒績著寧邊

吉田成美先生臨

▽鄭羲下碑

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



吉田成堂先生書

□北原白秋のうた　白魚の　移ろふ群の　ひとながれ　初秋の雲の　空にすゞしき。

≪手本（課題例）にとらわれず意欲的な作品を期待します。≫

半折作品は各課目ごとに横1/8に一枚ずつたたんで提出ください。

条幅随意参考手本（半折½縦のみ）　―９月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□「夕焼け小焼け」　中村雨紅の詞　小鳥が夢を見るころは　空にはきらきら金の星

歌のリズムに乗って、流れを意識して書いてみました。みなさんも楽しく書いてみてください。

坂　元　紫　香　先　生　書

条幅随意参考手本（半折½縦のみ）　―９月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□慎　独　独りを慎む　（大学）一人でいるときにも行いを慎み、心を正しくする。

落筆を高くして筆を開かせ、「独」は横への動きを意識してみましょう。また、偏や旁の疎密感も表現出来るといいですね。

小　畠　秋　聲　先　生　書

半紙規定参考手本　　―9月末日締切―

（この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする）



□秋花（しゅうか）は緑水（りょくすい）を冒（おお）う（唐・李白「古風」）
蓮の花が咲いているさま。

次号予告「露垂星影濕」

吉　田　成　美　先　生　書

半紙規定参考手本　　―9月末日締切―

（この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする）



□秋花（しゅうか）は緑水（りょくすい）を冒（おお）う（唐・李白「古風」）
蓮の花が咲いているさま。

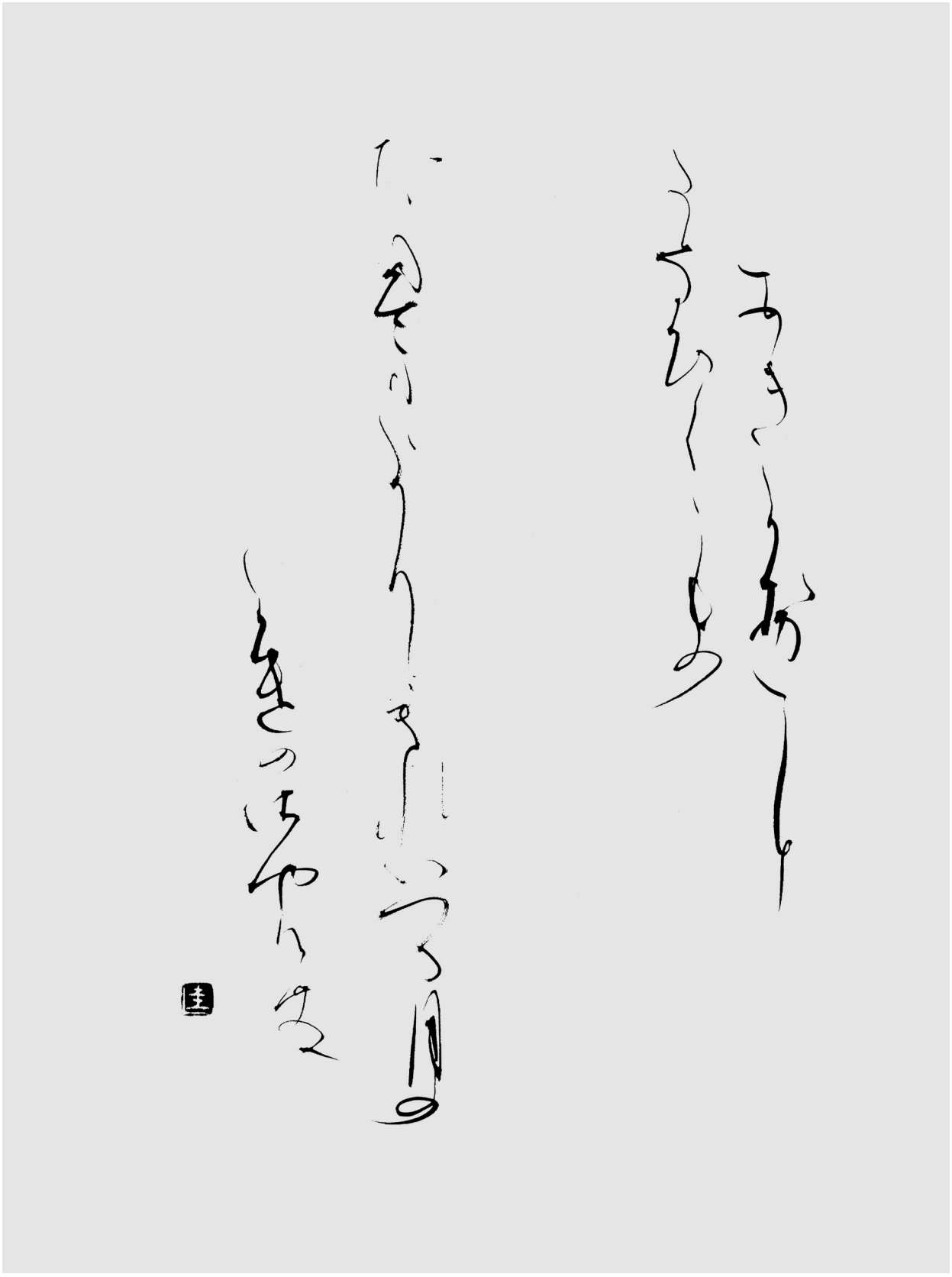
次号予告「露垂星影濕」

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―9月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

〈仮　名〉

あき可勢耳（かせに）　多（た）なひくゝもの　た盈万（えま）より　もれいつる月の　可遣（かけ）の佐（さ）や介散（けさ）

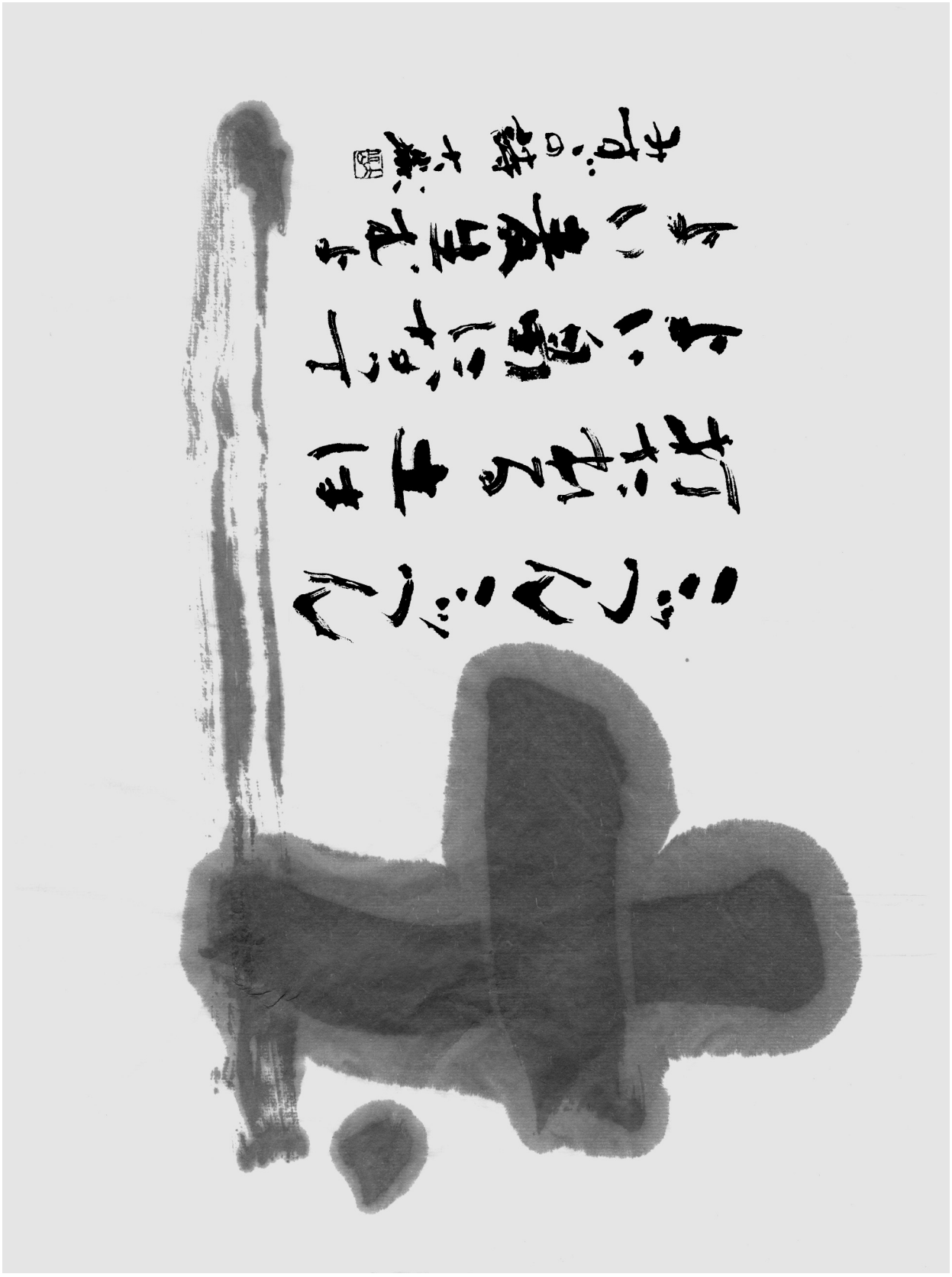


秋風に　たなひく雲の　たえ間より　もれいつる月の　かけのさやけさ

舟　尾　圭　碩　先　生　書

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―9月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



〈詩文書〉

「土」　金子みすゞの詩

こッつん　こッつん　打たれる土は　よい畠になって　よい麦生むよ

※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。（ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください）

渡邉大嶽先生書

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―9月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□閑靖少言　閑靖（かんせい）にして言少（げんすく）なし　（晋・陶淵明「五柳先生伝」）
心静かで口数が少ない。

清　原　大　龍　先　生　書

次号予告「純　實」

半紙随意（臨書）参考手本　　―9月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）



「義徒」

〈臨書〉摩崖を意識し、うねりや筆圧をかけた力強い線で書きましょう。

吉田成美先生臨

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―9月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



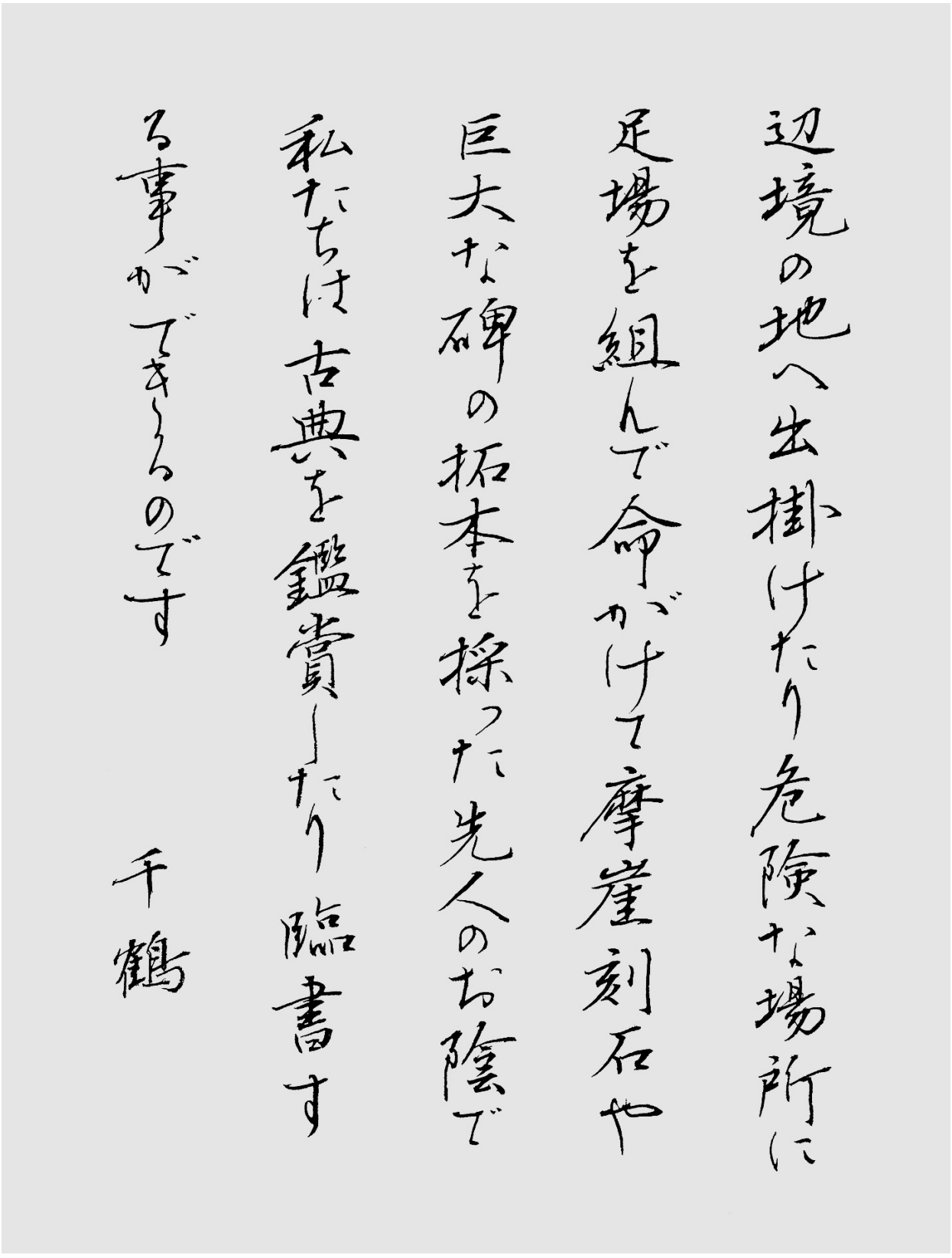
〈実用書〉

睦月（一月）　如月（二月）　弥生（三月）　卯月（四月）　皐月（五月）　水無月（六月）
文月（七月）　葉月（八月）　長月（九月）　神無月（十月）　霜月（十一月）　師走（十二月）

秋　永　春　霞　先　生　書

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―9月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



〈手紙文〉

辺境の地へ出掛けたり　危険な場所に足場を組んで命がけで　摩崖刻石や巨大な碑の拓本を採った先人のお陰で　私たちは古典を鑑賞したり臨書する事ができるのです　千鶴

大　坪　桂　子　先生書

一般硬筆部参考手本＜A＞ ―9月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目Ａ・Ｂのいずれか一点のみとする）

〈暮らしに役立つ書〉

書譜

長い休みも終わり、大学も日常の
生活に戻った頃でしょうか。帰省の折には、
元気な姿を見せてくれてありがとう。
学校、サークル活動、初めての一人暮らし、
充実した日々を過ごせているようで、安心
しました。次に会う時には、その関西の方言
にも磨きが掛かっているでしょう。
一緒に撮った写真を送りますね。では、
またの機会を楽しみにしています。

罫のある便箋に書いてみよう。〈26cm×18cm〉紙質は自由。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

兵　頭　白　慧　先　生　書

一般硬筆部参考手本＜B＞ ―9月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目Ａ・Ｂのいずれか一点のみとする）

メールが瞬時に地球を駆け巡る時代。
必然というべきか、手紙を書いたことのない若年層が増えているそうだ。郵便番号欄に電話番号を書くなど、基本を知らない小中学校生が結構いる。

段　級

氏　名

小畠秋聲先生書

今月のかきかたドリル　（形や注意する点に気をつけてゆっくり書こう！）

中　学	小学６年	小学５年	小学４年	小学３年	小学２年	小学１年	ようねん
窓	達	提	便	助	園	ボ	す
窓	達	提	便	助	園	ボ	す
窓	達	提	便	助	園	ボ	す

一般の方も是非チャレンジしてください。

坂元紫香先生書

学生部条幅¼　参考手本　　―9月末日締切―



ようねん・小学1年　小学2年　小学3年　小学4年



小学5年　小学6年　中学1年　中学2・3年

（この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。）

秋永春霞先生書

〈条幅¼＝四尺画仙紙半折¼…68cm×17・5cm〉

学生毛筆部規定参考手本　―9月末日締切―

ようねん・小学一年



□〝ハライ〟〝トメ〟のちがいに気をつけて、げんきよく、のびやかに書きましょう。

次号予告「むぎ」

小学二年



□書き始めは、筆にすみをしっかりとふくませ、ほ先をきれいにととのえて書きましょう。

次号予告「カステラ」

坂元紫香先生書

小学三年



□平仮名はうでの動きを大きく、懐(ふところ)を広くし、「糸」は点画の組み立て方を考えて書こう。

次号予告「水玉」

小学四年



□「中」は画の接し方に注意し、「秋」は〝偏(へん)〟と〝旁(つくり)〟のバランスに注意して書こう。

次号予告「知る」

吉田成美先生書

学生毛筆部規定参考手本　　―9月末日締切―

小学五年



□漢字と平仮名のバランスに気をつけ、「実」の四・五・六画目の横線の長さに注意して。

次号予告「読　む」

小学六年



□二文字の中心に注意して、「造」の〝しんにょう〟を伸び伸びと書きましょう。

次号予告「あけびの実」

秋永春霞先生書

中学一年



□文字の中心に気をつけ、点画の連続を理解し、リズムに乗って思いきりよく書こう。

次号予告「伝統文化」

中学二・三年



□筆脈や筆圧の変化など行書の筆使いを意識して、漢字と仮名の調和に留意して書こう。

次号予告「理想現実」（行書）

吉田成美先生書

ようねん　（※ようねんの方は、小学一年の課題を書いてもよい。但、審査は従来通りです。）

す	む	の	な	き	ご	
え	あ	か	と	ん	ぼ	

段級
氏名

たたなっかか、と

小学一年

ゆ	や	け	が	ひ	ろ	
が	ま	し	た。	「	き	
つ	く	ん	の	ズ	ボ	
ン	の	い	ろ	だ	ね	」。

段級
氏名

フスズ　ナホボ　、ン

坂元紫香先生書

学生硬筆部規定参考手本

―9月末日締切―

小学二年

お昼前に、どう
ぶつ園の中にある
びょういんにも
どってきました。

段級

氏名

「ヨ尸尺昼昼」（ひる）
丶 丷 亠 前 前 ［はねる］
前 ［はねる］
冂 冂 冂 冂 冂 園 園 ［とめる］

小学三年

話し合いや、発表の練習
で助言し合ったことを
思い出し、グループでつ
たえ合いましょう。

段級

氏名

フ ク 糸 糸 糸 糸 発 ［上にはねる］
く 糸 糸 糸 糸

小学四年

人間のちえは、人々の心を
結ぶ便利な道具や方法を
考え出し、多くの人によろ
こびをもたらすでしょう。

段級

氏名

坂元紫香先生書

小学五年

これからの社会をつくってい
くわたしたちがすべきことと
して、「ちいきの方と関わる機
会を増やす」ということについ
て、具体的な案を提案する。

段級

氏名

小畠秋聲先生書

学生硬筆部規定参考手本

―9月末日締切―

小学六年

作った短歌を短冊に書いて、読み合いましょう。友達の「たのしみ」が伝わってきましたか。「すてきだな。」と思う表現はありましたか。友達に感想を伝えましょう。

段級

氏名

歌歌哥哥可可

歌（はねる）

冊冊冊冊一一

冊（左右につき出る）

感感咸咸后戸

感（左はらいを先に書く／点をおとさない／左上にはねる）

中学

夜遅く、出窓で見張っていた弟が、「帰ってきたよ」と叫んだ。茶の間に座っていた父は、はだしで表へ飛び出した。防火用水桶の前で、やせた妹の肩を抱き、声を上げて泣いた。

段級

氏名

桶桶桶桶桶木木

桶（まっすぐ下におろす）

水桶（みずおけ）

座座座座座广广

座（さけ）

小畠秋聲先生書